

日々の暮らしに伴走する、誰の健康も尊厳も置き去りにしない病院をめざして

2023年 千鳥橋病院・千代診療所 医療活動紹介



千鳥橋病院 院長 山本 一視

千鳥橋病院には救急医療部門、各種検査部門、入院医療、外来透析、外来および通所リハビリテーション、健康増進部門があります。外来部門は近接診療所である千代診療所が担っています。

救急医療では2022年度に3919台の救急車を受け入れ過去最高の台数でした。コロナ禍で多いときは一日50件もの救急車要請のコールがなり、救急診療スペース（ER）のベッドや入院ベッドが手配できず、やむを得ず30件以上お断りするともありました。お一人でも多くの患者さんを受け入れようと現場は懸命に奮闘しました。

検査部門では内視鏡検査、MRIやCTなどの放射線検査、エコーなどの生理機能検査、血液などの検体検査部門があり、的確な診断を心がけています。

入院部門では産婦人科、小児から成人まで幅広い診療を行っており、医学的に良質な診療とその人をその人として尊重するケアをモットーとしています。高齢の入院患者さんの割合も多

くなり、一人ひとりの尊厳を守ること、その前提になる生活ケア（摂食、保清、排泄など）の質が大切になっていきます。入院食もおいしさにもこだわった治療食を提供しているだけではなく信条や宗教上の食材の条件にも対応しています。

コロナ診療では福岡市の重点医療機関として流行の早期から443名の入院を受け入れ、発熱外来では1万2388名を受け入れてきました。感染防止のレベルも福岡市の中で熱心にとりくむしっかりした病院として認識をいただいています。

千代診療所では急性期疾患から慢性疾患まで幅広く診療して、開業医の先生からのご紹介もいただいています。なかなか改善しない、原因がわからない、といった状況に対しても、病院との連携で詳しい検査もその場でいい、適切な判断や診断を行うことができるのが強みの一つです。また、看護外来にも力をいれており、医師の診療だけでは十分でない相談や療養指導を経験豊かな看護師が行っています。

リハビリテーションが充実していることは当院の特徴の一つです。優しく勉強熱心な81人のセラピストがしっかりと一人ひと

りの患者さんの回復力に向き合っています。

健康増進部門には健診センター、メデイカルフィットネス、調理実習室などがあります。当院は2008年からWHOの健康増進活動拠点病院（HPH）ネットワークの一員で、予防、健診に加えて健康増進の取り組みを行ってきました。

とても全部を紹介できませんが、職員一同、無差別平等と個人の尊厳を理念の第一に掲げて、「日々の暮らしに伴走する病院、誰の健康も尊厳も置き去りにしない病院」という目標にむかって常に向上心をもって研鑽しながら頑張っています。

少ない年金、低い賃金、高い保険料、高い窓口負担料・・・病気になることも休むこともできない人がたくさんおられます。誰もが真つ当な医療を受ける権利を持っています。当院ではその権利の実現を担うため無料低額診療事業に取り組んでいます。医療は患者と医療者の共同のいとなみです。経済的困難、認知症がはじまったのではないかと、どうしていいのかわからない困難など、様々な困難を一緒に乗り越えていきましょう。困りごとはいつでもご相談ください。

地域と福岡医療団をつなぐ

いいき健康

2023 5 vol.103

福岡医療団
発行責任者 舟越光彦
福岡市博多区千代5-18-1
TEL 092-651-1522
Mail fk-tomo@fid.jp

ふくおか健康友の会
公式LINE



研修医紹介

有延 和志 (写真前列中央)
長崎大学卒 (出身：北九州市)
学生時代は軽音学部でドラムを演奏していました。人と話すことは好きです。総合診療科に興味があります。初期研修では同じ失敗を繰り返さないように頑張ります！

上山 卓志 (写真後列左)
熊本大学卒 (出身：熊本県)
寝ることが得意で早起きが苦手です(笑)。内科全般に興味があり、一人前の医師になれるよう努力していきます！人見知りですが精一杯頑張ります。

公益社団法人福岡医療団 2023年度 入社式

2023年4月1日、入社式を行いました。医師5名、保健師1名、看護師21名、理学療法士5名、作業療法士1名、言語聴覚士1名、管理栄養士1名、医療経営マネジメントスタッフ1名、合計36名が入職いたしました。舟越理事長から多様性についてのお話、社会人として、民医連職員として勤務していただくうえでの歓迎の挨拶をいただきました。また、今年度の入社式は例年とは異なる形式で、主役の新人職員は自分が好きなものもしくは、レインボーカラーを身にまとい参加しました。個性あふれる自己紹介では全員が身に着けたアイテムの説明をおこない、会場は大いに盛り上がりました。今後は全職種合同で1週間の新入職員オリエンテーションに参加し、各職種ごとの研修を経て現場での活躍が期待されています！

沈 昶 (写真後列右)
山口大学卒 (中国生まれ、育ったのは博多です)
コロナ禍だったため、自宅で料理にはまりました。得意料理はチキンバターカレーです。循環器内科や神経内科に興味があります。初期研修では経験できることは全て吸収し、早く一人前に仕事ができるようになりたいです。

平井 拓夢 (写真前列右)
佐賀大学卒 (出身：三重県)
学生時代は野球部でした。趣味は将棋をしたり、城めぐりにいきます。やつと医師になれたことに喜びと期待感を抱いています。初期研修では好き嫌いにこだわらず何でも挑戦していきたいと思えます！

米坂 和貴 (写真前列左)
北里大学卒 (出身：宮崎県)
総合診療科に興味があります。休日にはキャンプに出掛けたり温泉に行きます。少しでも地域の皆さまに貢献できるように頑張りたいです！

おしらせ

ふくおか健康友の会
第25回定期総会

日程 2023年5月24日(水) 10時～予定
場所 ちどりビル2階大会議室 (福岡市博多区千代5-18-1)

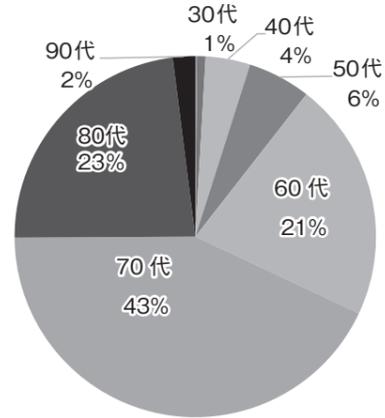
※コロナ感染拡大防止のため規模を縮小して開催いたします。

物価高騰で生活苦！生活実態調査報告

アンケートのご協力ありがとうございました

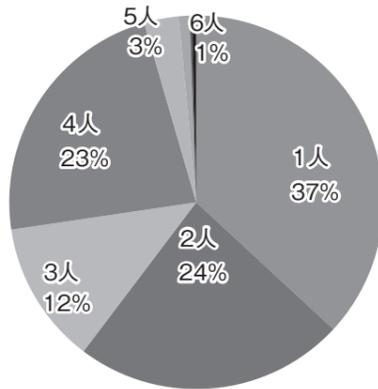
「みんなでつくる友の会アンケート」結果報告です。昨年の「いきいき健康」11月号に同封し554名の方がご回答くださいました。皆さまのご協力ありがとうございます。今回のアンケートは、コロナ禍になり3年目を迎えて改めて暮らしの中で困りごとや行政に対する要望等をうかがい、制度改善の運動につなげるために実施しました。以下が報告です。

Q1 世代



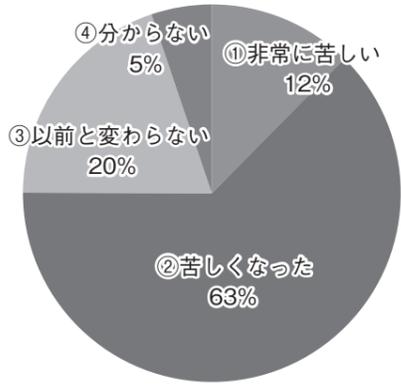
世代別では70代が222名(43%)、90代(11名)、80代(126名)、60代(118名)でした。20代、50代は合計して57名(11%)でした。

Q2 家族構成



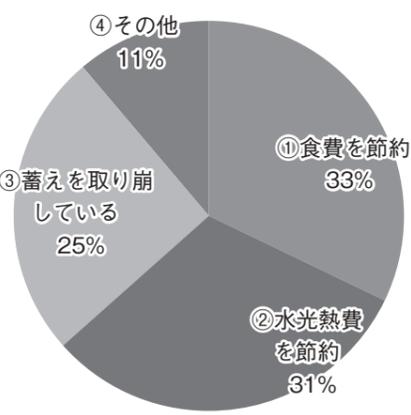
家族構成は、一人暮らしの方が19名(37%)、二人暮らし120名(23%)、三人暮らし66名(12%)、四人暮らし122名(23%)、五人暮らし16名(3%)、六人暮らしは合計して8名(2%)でした。

Q3-1 電気・ガス・燃料費の高騰により、様々な商品が値上がりしています。家計に対する以前のからの変化はどうですか？



「苦しくなった」が328名(63%)でした。しかし、「非常に苦しい」(12%)、「苦しくなった」(63%)を合わせると406名(75%)の方が生活状況が苦しくなっています。

Q3-2 「非常に苦しい」「苦しくなった」と回答された406名にお聞きします。現在、あなたはどのように対応されていますか？



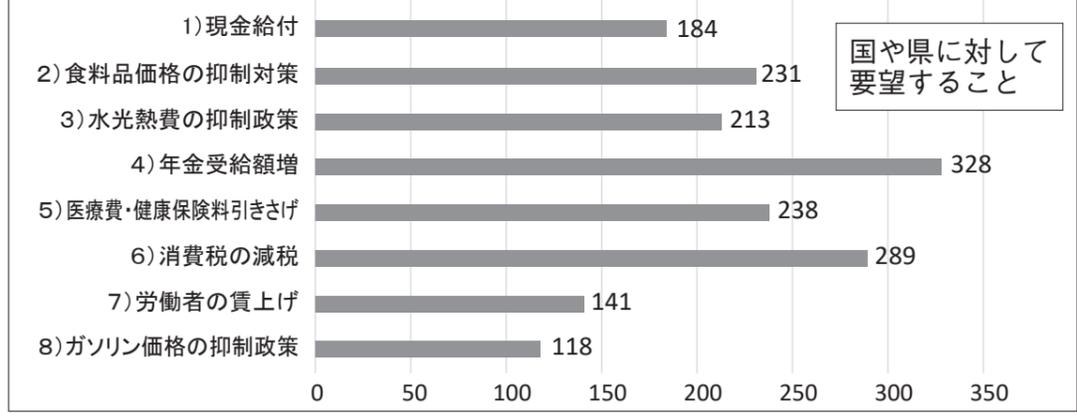
一番目に多かった218名の方が食費を節約していました。2番目に水光熱費を節約しており、生活レベルを下げ日々を過ごしている現状が続いています。

Q3-3 今の生活状況について「地域の声」

- ・風呂は2日に1度にしました。それでもシャワーですますこともあります(かすや支部)。
- ・自分で野菜をつくり、洋服類はあるもので又はリフォームしています(たばな支部)。
- ・なるべく安い物に行く回数を減らしている。コロナ感染も心配(わかす支部)。
- ・病院に行くのをやめた。これから先どうなっていくのか心配です(直轄菜の花支部)。
- ・通信費プランを見直したり、定期購読していたものをやめたりしている(新聞・書籍・固定電話やWi-Fiも撤去)(西支部)。
- ・入浴週2回、3回夏場、冬は週1、ガス水道節約。トイレ2回に1回流す、上下水節約。煮物は3日分同時に作り置く、冷蔵庫へ(たたら香椎支部)。
- ・ガソリン代を節約(必要時以外に車に乗らない)、外食は一切なくなりました(田川支部わかば)。
- ・何もかも値上げして、あえぎながら生きてる実態をわかってほしいです(嘉飯コスモス支部)。
- ・食費の節約は基本的には値引きシール貼った物から買うようにしています(中央支部)。
- ・年金で生活していますが、生涯現役と思っていましたががんになり年齢も加齢で働けません少ない貯金を削って生活しています(東・東支部)。
- ・食事を減らして1日1食か2食しか食べていない。電気代の節約で早く布団に入る(博多支部)。
- ・いつまでも働かざるおえない。老体に鞭打って働いています(南支部)。

Q4 解決策を国や県に対して取り組んで欲しいこと(フリーコメント)

- ・安心して老後も生きられる様に医、食、住対策をしっかりやってほしい(わかす支部)。
- ・税金って何のため？って思う。私達の暮らしの為に？そう思いたいけど。何かおかしいな！と(かすや支部)。
- ・税金の集め方と使い方を正さないためです(たばな支部)。
- ・軍事費を増やさず、社会保障を良くし、高齢者が安心して暮らせる社会にして下さい(直轄菜の花支部)。
- ・何もかも値上がりしているのに年金が減っている現状はおかしい(西支部)。
- ・一時的な現金給付ではなく、恒常的な減税。消費税減税、国保税の減額をしてほしい(たたら香椎支部)。
- ・物価上昇に合わせ、年金額の増額をしてほしい(田川支部わかば)。
- ・田舎暮らしは乗り物がないと病院にも食物の買物にも行けません。年寄りを助けてほしいです(嘉飯コスモス支部)。
- ・学費の軽減、学びたい人が生涯学習のシステムに。バイトバイトで社会に出たら学費の借金がある(中央支部)。
- ・医療費の自己負担が2割になりました。財布から千円札がどんどん出ていきます。年収300万円以上を2割負担にして下さい(東・東支部)。
- ・年々、年金が減少しているので、生活が苦しくなります(博多支部)。
- ・現金が生活費だけで手元に残らない。中学生の子がいますが、教育費が不安です(南支部)。



まとめ

今回のアンケートは各支部ごとに項目を分けて、生活状況をお聞きしました。生活苦で大変になっている状況や国や県へ要望したいことなど、様々な地域での様子が伺えました。また、経済的な理由で受診を断念している人へは「無料低額診療事業」の普及もすすめていきたいと思えます。今後は地域の実態を自治体へ発表すると共に、生活状況改善のために要望していきたいです。地域の皆さまの声を傾けながら、安心して住みつけられるまちづくりを目指し、皆さまと一緒に活動を続けていきたいと思えます。

